



静岡 STEAM FUTURE SCHOOL

2024, 12,15 No.9

2024探究活動発表会がグランシップで開催されました。

とです。



グランシップ11階「空」からみた霊峰富士
発表会当日は、素晴らしい秋空でしたね。



静岡県が誇る国際会議場-静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ「空」-で、静岡 STEAM フューチャースクール 2024「STEAM 探究活動発表会・第7回修了証授与式」が実施されました。受講生56名その保護者や家族、理科の先生方、一般市民の皆様等多くの皆様が参加し、盛大に行われました。

主催者であります静岡大学の日詰学長をはじめ村山教育学部長、元静岡大学興学長のあいさつの後、受講生の発表は、STAGE1.0 村松彰晴さんの「なぜアサギマダラは遠くまで飛ぶのか？」から始まり、STAGE1.5 ~ STAGE2.0 ~ STAGE3.0 と次々と展開し、小中学生のプレゼンとしては素晴らしい内容でした。

今回は、JST 科学技術振興機構の次世代科学技術チャレンジプログラムの責任者である東京大学先端研シニアリサーチフェローの神崎亮平名誉教授が、探究の視点や手法など多面的に何が素晴らしかったのか、を具体的にお話くださいました。



神崎先生は、昆虫の脳の研究をされ、カイコガのもつ匂い(におい)のセンサーを利活用しようという研究がTVでも放映されました。その領域では世界をリードする研究者です。

すごい科学者の先生が、みなさんの探究活動の成果を東京から見に来てくれたのです。神崎先生に自分の探究活動を取り上げていただいた人は、何を評価していただいたのかを思い出して記録しておきましょう。一流の科学者が自分の作品を語ってくれたということはすごいこ

サイエンスカンファレンスの表彰も神崎先生にお願いしたところ、快く引き受けていただきました。堀池哲平君「代替プラスチックの探究 part 3」、市川迅君「カラスウリの開花の仕組み「part 3」」が大賞を受賞しました。

そして「特別賞」の受賞を熊野善介前主担当から発表されました。

「静岡食材で宇宙食開発への道 part4」を探究した増田結桜さん、「カナヘビがカマキリをどうやって敵だと判断したのか part4」を探究した佐藤僚星君に「特別賞」が授与されました。「特別賞」は、アメリカのSTEAM 科学教育のセンターや STEAM を学んでいる



<村松さんのプレゼンからスタート>学生や中学生にプレゼンし、交流をします。来年6月の「全体説明会」で視察旅行の報告会を予定しています。どんな研修の旅だったのか、どんな見聞をしてきたのか、報告会が楽しみです。

さあ、来年は誰がアメリカに派遣されるのか・・・わくわくですね。受講生のみなさん、英語に磨きをかけることがグローバルな社会では求められています。

グランシップでの発表会も終わり、**みなさんにとって2024年度の探究活動はどんな意味をもっていましたか。**フューチャースクールの目標としていた「チャレンジ！」はできましたか。あなたが今年取組んだ探究活動は、どこまで自分の探究能力を高めることができましたか？それを単に12月15日に発表した・・・で、終わっていませんでしたか。講座の中でお伝えしましたが、スポーツや音楽の習い事と同じように考えてみるとよくわかります。挑戦が学校だけで終わったのか、学校代表で市の大会に出るレベルに成長したのか、地区レベルだったのか、県まで頑張ったのか、もしかして全国にまでチャレンジしてみた人も・・・。地域社会の中で、自分がチャレンジしたことを評価してもらうことは、自分が身につけた科学探究能力がどこまで通用する能力になったのかを推測することができる方法だからです。(文責:増田)